

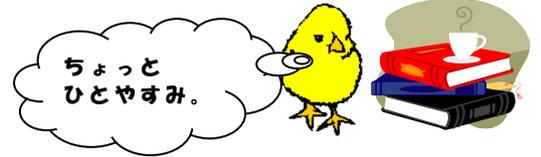
それゆけ！ としょかんだより



2007年12月
第8号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

11月…そして12月(師走)…。
だんだん忙しくなってきますが、充実した秋をおくれていますか？
時々一休みするのも、大切ですよ♪



全国書店売上BEST10!

※このランキングは、Yahoo!ブックスの毎月1日目のランキングです。

11月

- 第一位 『ホームレス中学生』
- 第二位 『女性の品格』
- 第三位 『いつまでもデブと思うなよ』
- 第四位 『求めない』
- 第五位 『お一人様の老後』
- 第六位 『DRAGON BALL Z 流星武闘書』
- 第七位 『「1日30分」を続けなさい!』
- 第八位 『生物と無生物のあいだ』
- 第九位 『不気味で素朴な困われた世界』
- 第十位 『走ることにして語る時に僕の語ること』

10月

- 第一位 『女性の品格』
- 第二位 『田中宥久子の造顔マッサージ』
- 第三位 『田中宥久子の体整形マッサージ』
- 第四位 『ポケモン不思議のダンジョン時の探検隊』
- 第五位 『紀香バディ!』
- 第六位 『「1日30分」を続けなさい!』
- 第七位 『ぼく、オタリーマン。2』
- 第八位 『いつまでもデブと思うなよ』
- 第九位 『ホームレス中学生』
- 第十位 『私訳 歎異抄』

9月

- 第一位 『女性の品格』
- 第二位 『楽園上』
- 第三位 『DDD 2』
- 第四位 『反転』
- 第五位 『幻香』
- 第六位 『毎日かあさん 4』
- 第七位 『銀魂 2』
- 第八位 『日本人のしきたり』
- 第九位 『鈍感力』
- 第十位 『人間の絆』

今、多くの方々に読まれている人気の本達、
いかがでしたでしょうか？
ここからは、図書館の学生モニターさんが
選んだ本達の紹介です。



学生モニターの方々

- 日本文化 4回生 石黒さん
- 日本文化 4回生 伊藤さん
- 密教学科 4回生 菊地さん
- 密教学科 4回生 濱本さん
- 密教学科 3回生 井上さん
- 密教学科 3回生 山上さん

※学生モニターの方々は、
公募の結果、決まりました。

モニターの方々が選んでくださった本を、
ほんの一部ですがご紹介致します。

- 『今日も動物園日和』940/キ/9
- 『漢字 幸せ読本』640/カ/29
- 『日本人が行けない「日本領土」』810/ニ/62
- 『知っているのと役に立つ、お天気の話』910/シ/65
- 『眠りの悩み相談室』920/ネ/3

ここに載っていない本も、まだまだたくさんあります。
ぜひ、図書館まで来てお手に取って下さい

2007年11月の開館予定表

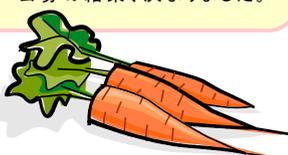
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

2007年12月の開館予定表

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

9:00-19:00	13:00-19:00
9:00-17:00	13:00-17:00
9:30-12:00 / 13:10-17:00	
閉館	9:00-12:00

切り取り



今月のおすすめ図書！

※今月は南昌宏先生のおすすめです。



梅棹忠夫 著『知的生産の技術』（岩波新書、1969年）

請求記号：岩新/青/722

大学生になって半年後、多くの人は困惑する。「課題としてレポートを提出せよと言われたけれど、レポートって何だ？ どうやって書くんだ？」そんな疑問を胸に秘めつつ、どうにかこうにかレポート（らしきもの）をでっちあげ、おそろおそろ提出すると、盗作でない限りは合格点が付く。良い点が付いていれば良いレポートで、悪い点が付いていれば悪いレポートなのだろう。そうこうしているうちに4年生になってしまい、卒業論文を書かねばならなくなる。「ああ……困った……。」そんな時、手にするのが、今回紹介する『知的生産の技術』である。今、大学で〈先生〉と呼ばれている人たちの多くも、大抵はこんなふうにしてこの本と出会っている（……と思う）。「ハウ・ツーもの」の寿命は短い。時代が変化すると、かつての技術が通用しなくなるからである。本書の初版は1969年なので、40年近くも前の著作である。だから当然、もう使えない部分もある。それでもなお有益なことが多く載っているのには、二つの理由がある。一つは、この本が「未来のハウ・ツーもの」だったから。もう一つは、著者も言っているように、この本の本質が、いわゆる「ハウ・ツーもの」ではないから。本書で語られていることの多くが、今日現実のものとなった。アナログ全盛の時代にデジタル的発想を持ち込み、情報こそがもっとも重要なものであるという認識が示されている。40年後の今、これらは当たり前のことになってしまったので、「未来のハウ・ツーもの」としての役割は、近い将来なくなるであろう。しかし、もう一つの「ハウ・ツーもの」ではない部分、すなわち〈知的生産のための原理〉について書いてある部分は、半永久的に有効であると思う。研究というものを、職人芸の世界から引きずり出し、万人のものにしてくれた功績は大きい。念のために言っておくけれども、本書を読んだからといって、卒業論文が書けるわけではない。結局は、「なにがなんでも書きあげるのだ」という熱い思いが書かせるのである。悪しからず。

今月の…ぴか！

脳が大きくなったほ乳類、体のバランスを保つための中脳が大きくなった鳥、大きな脳はもたずに体の節々に神経節を持ちすばやく動くのに適した昆虫。動物はそれぞれの生き方、時代にあった脳を発達させてきました。また互いに、多くの共通した脳の構造と機能をもっています。脳は脳、間脳、脳幹、小脳にわかれ、それぞれが協調して働いています。また、ほ乳類では、大脳皮質が大きく発達しています。大脳皮質は、前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉に分かれています。大きな前頭葉をもつことはヒトの特徴で、創造や理性、計画性などにかかわっているとされています。

さまざまな脳

常に海中で動き回っているマグロ等の魚、オットセイ等の一部の哺乳類や、空を長時間飛び続けるカモメなど海や空で長時間過ごす動物たちは、左右の脳を交互に休ませることによって、活動を続けています。つまり脳を半分だけ眠らせることが出来るのです。渡り鳥の中には片目だけつぶって飛びながら眠る鳥があり、人間のように寝るときに活動を停止するのではなく、泳ぐ、飛ぶといった活動を行いながら、眠ることができるのです。

眠りながらも、飛んだり、泳いだり、できるなんて、便利な脳ですね～♪ちょっとわけてほしいです…。

※参考にした資料は、茂木健一郎著『意識とはなにか：「私」を生成する脳』（筑摩書房、2003年） / 水波誠著『昆虫：驚異の微小脳』（中央公論新社、2006年） / 前野隆司著『錯覚する脳：「おいしい」も「痛い」も幻想だった』（筑摩書房、2007年） / 脳の世紀推進会議編『脳は不思議がいっぱい：2006世界脳週間の講演より』（クバプロ、2007年）です。興味をお持ちの方は、どうぞご覧下さい。



（編集後記）やっぱり読書の秋ですね♪
いろんなことを知っていくのは楽しいです。
どんどん本が読みたいですね！（玉）

発行所

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835 / Fax:0736-56-5590 /
E-mail:service-lib@koyasan-u.ac.jp